
学生による地域活性化プログラム

平成25年度 活動報告書



平成26年3月

 長岡大学

ご あ い さ つ



学長 内藤 敏樹

地域活性化プログラムも今回で7年目になります。今回から文科省の「地（知）の拠点事業（COC）」の一環としての位置づけがなされ、面目を一新して—というには代わり映えしませんが—再スタートすることになりました。

COC事業は、大学（だけではなく高等専門学校もですが）の「地域貢献」をさらに促すものです、大学が行うのは教育であり研究なのですが、それを通じて、さらには積極的に直接行動に出ることによって地域のさまざまな課題解決に寄与し、お役に立っていかうとするのが地域貢献ということであろうかと認識しています。

これまでのプログラムの中で学生と地域の方々がいろいろな形で接触し、さまざまな活動を行ってまいりました。中には「若い学生さんが地域の中に入ってきてくれるだけで樹分です」というご意見もありましたが、さらにプラスしてもっと地域のためになることをしなければならないと考えています。

山本五十六ではありませんが、人を教育するという事は単に「言って教える」だけではなく、「やってみせ、言って聞かせてさせてみて」という実体験、言葉は悪いかもしれませんが「身体で覚える」という要素があることは事実でしょう。このような貴重な場を提供していただいた地域の方々には、厚く御礼申し上げる次第です。

本学は開学以来、「去華就實」「社会に役立つ人間となれ」をモットーとしています。どこかで述べたことですが、私の好きな言葉（というよりも祖父の実家がお寺だったので何度も言われた言葉）に、最澄上人の「一隅を照らす、これ則ち国の宝なり」というのがあります。読み方解釈は種々あるようですが、得意技を持って、得意技を一生（一所？）懸命やるのが世の中にとって一番有効なことである—というように理解しています。

言葉を代えて言うとゼネラリストよりはエキスパートたれということでしょうか。本プログラムは地域が、あるいは組織というものがどのようなエキスパートの集まりでなっているかを知る、さらに地域が機能し発展していくためにはどのような得意技（これも言葉を代えていうなら比較優位）を持たねばならないかを実感するためにも必要なことだろうと思います

地域交流、実社会との連携を行っている教育機関は他に数多くあると思います。東日本大震災の後も、被災地の支援を正課の中で取り上げた大学のあることが報告されています。ただ、本学のような形で長期間地域との関係を築き上げているものはあまりないのではないかと自負しています。地域の方々にとってはご迷惑なことかも知れませんが、次世代の若者の成長のためによろしく願いする次第であります。

平成26年3月

第1章 学生による地域活性化プログラムの概要

1.1 プログラムの位置づけ

「学生による地域活性化プログラム」は、「平成19年度採択文部科学省現代的教育ニーズ取組支援プログラム（現代G P） 学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー（平成19年度～21年度）」（略して、地域活性化G P）を継続的に行う取組であるが、提案にとどまらず具体的な行動を学生が行うことによって、学生の社会人基礎力と地域貢献を目指すものである。

地域活性化G Pは、長岡市の総合計画を題材に地域活性化提案を行うものであったが、本プログラムは「NPO法人長岡産業活性化協会（NAZE）との共同研究」や「地域コミュニティ」など、広く中越地域や新潟県を対象とした取組である。また、活動は本学3，4年生のゼミを基本とするが、ゼミを越えたチーム・任意団体でも良い。

（注）「学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー」については、長岡大学ブックレット第16号『長岡大学教育プログラムVI 学生による地域活性化提案プログラムー政策対応型専門人材の育成ー』を参照されたい。

1.2 プログラムの概要

(1) プログラムの内容

長岡市は三度にわたって11市町村で合併したが、新市として発展する上で様々な地域課題の解決に迫られている。また、地域主権の考えのもとに「新潟県と新潟市が合併する新潟州構想」や「長岡市人口40万人都市構想（平成25年の人口は28万人）」もあり、地域問題は益々広域化し、より独自の方向性の検討が期待されている。

本プログラムにおいては、学生グループが長岡地域や新潟県の課題を対象に実地に調査研究を行い地域活性化方策の提案・地域活性化の実践を行う。これによって、学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を同時に実現することを目的とする。

本プログラムの内容は、①問題解決型教育＝体験・参加型教育の実践として、②長岡地域および新潟県内、またより一般的に地域の課題（環境、福祉、市民生活、産業等）をゼミナール（3年次，4年次）のテーマとしてとりあげ、③ゼミナールの学生グループがテーマごとに設ける地域連携アドバイザー（市担当者、関係団体の職員等）との緊密な連携と専門教員の指導の下に、④専門知識とスキルを応用してフィールド調査等の作業を行い、⑤地域活性化に貢献するとともに、その活動を広報し、地域社会にフィードバックすることである。

(2) プログラムの趣旨・目的

長岡大学は地域の産業界のニーズに対応した「幅広い職業人」の育成を第一の使命として設立された。長岡大学の教育の基本は社会人基礎力とビジネス展開能力（企画力、提案力）の育成、ビジネスの現場に直結した専門的な知識とスキルの習得である。この考えを実現するため、地域の産業界との緊密な連携の下に実践的教育を展開する「産学融合型専門人材開発プログラムー長岡方式ー」を確立した。

本プログラムは既に確立している長岡大学の教育プログラムをさらに発展させ、

産業界だけでなく、まちづくりや生活環境の改善など地域社会のニーズにも貢献できる人材を育成することを第一のねらいとしている。長岡地域は、この9年の間に「7.13水害」、「中越大震災」、「豪雪」と多くの災害にみまわれてきた。そのような経験の中で、地域社会が必要とした人材は、自分で判断して行動できる実践力のある人材であった。本取組は、学生をこのような地域が求める人材に育て上げることを目的としている。

(3) 学生教育の目標、養成する人材像

本学の基本理念に対応して、長岡大学改革宣言（平成16年10月発表）において、本学の教育の目標を次のように掲げた。

地域社会、地域の企業と連携し、地域の産業界のニーズに直結した長岡大学独自の「ビジネス能力開発プログラム」を展開し、ビジネスを発展させるための企画を立て、提案し、実行させる能力と人間力のある人材を創造する。

さらに、学生に対して「毎日の学生生活で充実感を、レベルアップを確認して達成感を、卒業のときに4年間で振り返って満足感を」実感してもらうことを約束している。

本取組は、上記のような本学の教育の目標と学生に対するコミットメントを達成することと、本学の基本理念を具体的に実践することを目指した教育プログラムの一環である。

本プログラムは、産業界ばかりでなく、市民活動やNPO等の非営利的な活動をも含めて、地域社会と連携し、地域の活性化に貢献できる実践力のある人材育成を目指すものである。

(4) 設定する学生教育の目標と養成する人材像のニーズ

本取組における学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力(アクション力、シンキング力、チームワーク力)の向上
- ② ビジネス展開能力(企画・提案力・実行力)の向上
- ③ 専門的技法に関するスキルの向上

である。

専門的技法として学習するものは、情報・データ収集技法(情報検索、インターネット活用)、統計分析技法(統計の読み方、表計算ソフトの応用)、社会調査技法(アンケート、インタビュー)、レポート作成法、プレゼンテーション技法などである。なお、専門的技法については「学生による地域活性化提案プログラム－政策対応型専門人材の育成－平成19年度活動報告書」(平成20年3月、長岡大学)を参照されたい。

上記の能力と技法を身につけ、実際に長岡地域の社会的問題に関わった学生は、地域社会が必要とする、自分で判断して行動できる実践力のある人材として歓迎されると考えている。

(5) 目標を達成するための教育プログラム

本プログラムは、3、4年次のゼミナールにおける問題解決型教育（Problem-based Learning、Project-based Learning、PBL）＝体験・参加型教育の実践により、学生の企画・提案力の向上を図ろうとするものである。プログラムは大きく、

- ① 実課題の設定（地域社会が実際に解決したいと考えている問題を理解した上で、取り組むべき実課題の設定を行う）
- ② 参考になる情報やデータの収集（実課題に関係する調査報告、統計データ、論評、過去の経緯等を収集し要点を整理する）
- ③ フィールド調査の実施（アンケート調査やヒアリング調査、市民活動への参加を通じて、市民や産業界が真に求める施策や地域が活性化するための方策を検討し実際に活動する）
- ④ 報告書の作成と発表（調査検討を通じて得られた知見をもとに報告書の作成を行うとともに、行政当局、市民団体、企業等の関係者、市民に対して活動報告を行う）

の4つのステップで構成されるが、課題の選択、活動の内容等によって具体的な方法は様々なものになる。それについては「4.2 取組結果の概要」を参照されたい。

第2章 平成25年度取組の経過

2.1 本年度取組の経過

平成25年度の「学生による地域活性化プログラム」の主な実施経過は、次のとおりである。

<平成25年度取組の経過>

4月18日	平成25年度第1回地域活性化プログラム運営部会開催（以後、毎月1回開催）
5月16日	平成25年度第2回地域活性化プログラム運営部会開催
6月6日	平成25年度第3回地域活性化プログラム運営部会開催
6月26日	平成25年度第1回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
7月11日	平成25年度第4回地域活性化プログラム運営部会開催
9月12日	平成25年度第5回地域活性化プログラム運営部会開催
9月17日	中間レビュー：村山ゼミ
9月30日	中間レビュー：吉盛ゼミ
10月10日	平成25年度第6回地域活性化プログラム運営部会開催
10月15日	中間レビュー：高橋ゼミ
10月22日 10月29日	中間レビュー：米山ゼミ
10月26日 10月27日	悠久祭（大学祭）において、地域活性化プログラムの活動を紹介
10月29日	中間レビュー：広田ゼミ
11月14日	平成25年度第7回地域活性化プログラム運営部会開催
11月29日	中間レビュー：鯉江ゼミ
12月4日	中間レビュー：権ゼミ
12月14日	地域活性化プログラム平成25年度成果発表会開催 於：ホテルニューオータニ長岡 NCホール
12月18日	平成25年度第2回地域活性化プログラム推進協議会開催 於：長岡大学
1月16日	平成25年度第8回地域活性化プログラム運営部会開催

2.2 平成 25 年度の学生による地域活性化プログラム取組ゼミ

本年度は7ゼミ、1チームの計8取組が実施された。各取組の活動報告については「第5章 取組結果のまとめ」を、学生が作成した成果報告については「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

<取組ゼミとテーマ>

ゼミ名	テ ー マ
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割
米山 宗久 ゼミ	高齢者の買い物支援 —地域のつながり再構築—
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—
鯉江 康正 ゼミ	新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を知らせよう！
高橋 治道 ゼミ	地域の魅力発信による絆結び —神谷の魅力をつなげ・ひろげる—
吉盛 一郎 ゼミ	長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
小千谷活性化 プロジェクトチーム	小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言

(注)ゼミの順序は、成果報告会発表順および「第Ⅱ部 学生による活動報告」の掲載順である。



2.3 平成25年度の推進体制

平成25年度の『学生による地域活性化プログラム』の推進体制は、次のとおりである。

<総合アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
長岡市市長政策室政策企画課	課長	渡辺 則道
株式会社品川鑄造	会長	品川 十英

<地域連携アドバイザー>

所 属	職 名	氏 名
市民協働部市民協働推進室	主任	木村 圭介
まちな駅ネーブルみつけ	駅長	中川 一男
株式会社たかの	取締役会長	高野 雅
株式会社たかの	元常務	樋熊 捷平
長岡歯車資料館	館長	内山 弘
ながおかまちの駅	駅長	太刀川 喜三
神谷地区	区長	白井 湛
NPO法人ながおか生活情報ねっと	理事長	桑原 眞二
自営	ITコンサルタント	David Boudreau
コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク	代表	大出 恭子
NPO法人長岡産業活性化協会N A Z E	情報化コーディネーター	杉浦 聡
市長政策室政策企画課	主査	林 智和
財団法人長岡市企業公社 東山ファミリーランド 長岡市営スキー場	施設長	和田 行夫
長岡東山フェニックスグループ 長岡市営スキー場 東山ファミリーランド 東山テニス場 八方台いこいの森	施設長	桑原 一頼
福祉保険部長寿はつらつ課	主査	綿貫 哲夫
社会福祉法人長岡市社会福祉協議会 本部事務局 地域福祉課	課長	本間 和也

<学内推進委員>

学 長	教 授	内藤 敏樹
運営委員長	教 授	鯉江 康正
ゼミ担当教員	准教授	権 五景
ゼミ担当教員	教 授	高橋 治道
ゼミ担当教員	教 授	広田 秀樹
ゼミ担当教員	教 授	村山 光博
ゼミ担当教員	教 授	吉盛 一郎
ゼミ担当教員	准教授	米山 宗久

第3章 本取組における学生教育の評価

地域活性化プログラムにおける学生教育の目標は、

- ① 社会人基礎力（アクション力、シンキング力、チームワーク力）の向上、
- ② ビジネス展開能力（企画・提案力・実行力）の向上、
- ③ 専門的技法に関するスキルの向上、

である。

3.1 社会人基礎力の評価

社会人基礎力が伸びたかどうかについては、学生に「社会人基礎力診断シート(学生用)アンケート」(参考資料 3)を実施した。また、地域活性化プログラム運営部会の構成員であるゼミ担当教員には、同様の「社会人基礎力診断シート(教員用)アンケート」(参考資料 4)を実施した。

アンケートは、取組に参加した学生一人一人を対象に、社会人基礎力の変化を評価する形で実施した。したがって、学生は自己評価（有効回収数 62）であり、教員は各ゼミ学生についての評価である。

(1) アクション力の評価

アクション力に関する指標は、[主体性]、[働きかけ力]、[実行力] である。

① 主体性

取組に「進んで取り組んだ」と答えている学生は62.9%で、教員評価では45.3%となっている。学生と教員の評価を比較すると、教員評価の方が17.6ポイント低くなっている。

Q1. [主体性] あなた（この学生）は、進んで取り組みましたか。

	進んで取り組んだ	あまり進んで取り組めなかった	取り組めなかった	無回答	合計
学生	39	23	0	0	62
教員	29	27	7	1	64
学生	62.9%	37.1%	0.0%	0.0%	100.0%
教員	45.3%	42.2%	10.9%	1.6%	100.0%



② 働きかけ力

取組の実施にあたって他の人に積極的に働きかけたかどうかについては、「積極的に働きかけた」と回答している学生が38.7%で、教員が29.7%となっている。学生と教員の評価を比較すると、教員評価の方が9ポイント低くなっている。「あまり働きかけられなかった」と回答している学生は51.6%で、教員の評価では57.8%となっている。

[働きかけ力]は、[主体性]や[実行力]に比較して「積極的に働きかけた」学生がやや少なく、まじめで、こつこつと取組には参加するが、リーダーシップを発揮できる学生が少ない結果となっている。

Q2. [働きかけ力] あなたは、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。

	積極的に働きかけた	あまり働きかけられなかった	ほとんど働きかけなかった	合計
学生	24	32	6	62
教員	19	37	8	64
学生	38.7%	51.6%	9.7%	100.0%
教員	29.7%	57.8%	12.5%	100.0%

③ 実行力

取組にあたって確実に実行できたかどうかについては、「確実に実行できた」と回答している学生が54.8%で、教員が57.8%と、この設問では教員評価の方が若干高く、学生評価を3ポイント上回っている。「あまり実行できなかつた」と回答している学生は43.5%で、教員評価では34.4%となっている。実際の活動状況から判断すると、学生は取組の過程でつまづきながら進んでいるので、評価が厳しくなっている可能性がある。

Q3. [実行力] あなたは、取組を確実に実行できましたか。

	確実に実行できた	あまり実行できなかつた	ほとんど実行できなかつた	合計
学生	34	27	1	62
教員	37	22	5	64
学生	54.8%	43.5%	1.6%	100.0%
教員	57.8%	34.4%	7.8%	100.0%



④ アクション力

取組前と比較して、アクション力が「上昇した」と回答している学生は62.9%で、教員は50.0%とアクション力の総合評価でも上昇した学生が多いことが分かる。

とりわけ、学生は「上昇した」と回答している割合が高くなっており、総合的には成長を実感しているものと思われる。

Q4. 取組前と比較して、アクション力は、上昇したと思いますか。

	上昇した	あまり上昇しなかった	ほとんど変化がなかった	合計
学生	39	14	9	62
教員	32	28	4	64
学生	62.9%	22.6%	14.5%	100.0%
教員	50.0%	43.8%	6.3%	100.0%

(2) シンキング力の評価

シンキング力に関する評価項目は、[課題発見力]、[計画力]、[創造力]である。

① 課題発見力

課題を「明らかにできた」と回答している学生は66.1%であり、教員評価では54.7%となっている。学生と教員の評価を比較すると、教員評価の方が11.4ポイント低くなっている。何を課題としてとらえているのかについて、各学生と担当教員との認識を一致させるような機会を積極的に設けていくことが期待される。

Q5. [課題発見力] あなたは、課題を明らかにできましたか。

	明らかにできた	あまり明らかにできなかった	ほとんど明らかにできなかった	無回答	合計
学生	41	19	2	0	62
教員	35	22	6	1	64
学生	66.1%	30.6%	3.2%	0.0%	100.0%
教員	54.7%	34.4%	9.4%	1.6%	100.0%



② 計画力

課題解決の準備については、「準備できた」と回答している学生が50.0%で、教員評価では43.8%となっている。教員評価が学生評価に比べて6.2ポイント低くなっている。この結果は、前の指標の「課題発見力」に関連して、課題のとらえ方についての認識の違いを含んでいる可能性がある。本学の学生の場合、言われたことはやるが、自分から進んで計画し実行する力が弱い傾向がある。この傾向は本学のみならず、今の若者の特徴でもあると思われるが、次の指標の「創造力」同様、自分自身で考える能力の訓練が望まれる。

Q 6. 「計画力」あなたは、課題解決の準備ができましたか。

	準備できた	あまり準備できなかつた	ほとんど準備できなかつた	合計
学生	31	28	3	62
教員	28	30	6	64
学生	50.0%	45.2%	4.8%	100.0%
教員	43.8%	46.9%	9.4%	100.0%

③ 創造力

新しいアイデアを出せたかという質問に対して、「十分出せた」と回答している学生の割合は32.3%と低い結果となっている。それに対して、教員評価では、37.5%の学生が「十分出せた」という結果になっている。取組の検討段階で、実際には多くの学生がいくつかのアイデアを出せているが、実行に移そうという段になって行動に移せない面が見られる。この点は、昨年度までのアンケート結果でも見られた傾向であり、自分が出しているアイデアをなかなか実行に移せないことが影響しているように思われる。

Q 7. 「創造力」あなたは、新しいアイデアを出せましたか。

	十分出せた	あまり出せなかつた	ほとんど出せなかつた	無回答	合計
学生	20	36	5	1	62
教員	24	30	9	1	64
学生	32.3%	58.1%	8.1%	1.6%	100.0%
教員	37.5%	46.9%	14.1%	1.6%	100.0%



④ シンキング力

取組前と比較してシンキング力が向上したかどうかについては、「上昇した」と回答している学生は59.7%で、参加学生全体の6割近くが、シンキング力が上昇したと考えている。教員評価では43.8%となっている。「ほとんど変化がなかった」と回答している学生は9.7%で、教員評価では10.9%である。

この結果から、本取組は個人の感じ方もあるが、少なくともプラスに働いていると思われる。「アクション力」同様、「シンキング力」でも総合評価では成長がみられている。

Q 8. 取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、
上昇したと思いますか。

	上昇した	あまり上昇し なかった	ほとんど変化 がなかった	合計
学生	37	19	6	62
教員	28	29	7	64
学生	59.7%	30.6%	9.7%	100.0%
教員	43.8%	45.3%	10.9%	100.0%

(3) チームワーク力の評価

チームワーク力に関する指標は、[発信力]、[傾聴力]、[柔軟性]、[状況把握力]、[規律性]、[ストレスコントロール力]である。

① 発信力

自分の意見を相手に伝えられたかどうかについて、「十分伝えられた」と回答している学生の割合は45.2%で、教員評価では50.0%となっており、教員評価の方が4.8ポイント高くなっている。

「あまり伝えられなかった」、「ほとんど伝えられなかった」を合わせると学生の割合は54.8%、教員評価では50.0%であり、積極性の無い学生もみられる。

Q 9. [発信力] あなたは、自分の意見を相手に伝えられましたか。

	十分伝えられ た	あまり伝えら れなかった	ほとんど伝え られなかった	合計
学生	28	30	4	62
教員	32	28	4	64
学生	45.2%	48.4%	6.5%	100.0%
教員	50.0%	43.8%	6.3%	100.0%

② 傾聴力

相手の意見を聞けたかどうかの傾聴力については、「十分聞けた」と回答している学生の割合は77.4%で、教員評価では64.1%と高くなっている。

「発信力」は低い、「傾聴力」は高いという傾向は毎年同じである。

Q10. [傾聴力] あなたは、相手の意見を聞けましたか。

	十分聞けた	あまり聞けなかった	ほとんど聞けなかった	合計
学生	48	14	0	62
教員	41	22	1	64
学生	77.4%	22.6%	0.0%	100.0%
教員	64.1%	34.4%	1.6%	100.0%

③ 柔軟性

意見の違いなどを理解したかどうかについては、「十分理解した」と回答している学生の割合が66.1%、教員評価では70.3%となっている。教員評価の方が4.2ポイント高くなっている。取組の継続により活発な意見交換がなされているゼミも多く見られるが、テーマが継続的であるために惰性で取り組んでいる学生も見られる。

Q11. [柔軟性] あなたは、意見の違いなどを理解しましたか。

	十分理解した	あまり理解しなかった	ほとんど理解しなかった	無回答	合計
学生	41	19	1	1	62
教員	45	17	2	0	64
学生	66.1%	30.6%	1.6%	1.6%	100.0%
教員	70.3%	26.6%	3.1%	0.0%	100.0%

④ 状況把握力

周囲の人や物事との関係をよく理解したかという質問に対しては、「十分理解した」と回答している学生の割合は59.7%で、教員評価では43.8%となっている。また、「一定に理解した」を加えると、学生の自己評価では96.8%、教員評価では98.5%となっている。ここでも、取組の継続により、学生の活動への状況把握力の向上が見られる。

Q12. [状況把握力] あなたは、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。

	十分理解した	一定に理解した	ほとんど理解しなかった	合計
学生	37	23	2	62
教員	28	35	1	64
学生	59.7%	37.1%	3.2%	100.0%
教員	43.8%	54.7%	1.6%	100.0%

⑤ 規律性

ルールや約束を守ったかどうかについては、「守った」と回答している学生の割合が80.6%で、教員評価では76.6%となっている。繰り返しになるが、取組の継続により、外部の人とのアポイントの重要性が十分に理解されてきていると思われる。また、学生同士の話し合い（学生自身によるサブゼミ）も多く実施されていた。

Q 13. [規律性] あなたは、ルールや約束を守りましたか。

	守った	あまり守れなかった	合計
学生	50	12	62
教員	49	15	64
学生	80.6%	19.4%	100.0%
教員	76.6%	23.4%	100.0%

⑥ ストレスコントロール力

ストレスをうまく解消できたかという質問に対して「うまく解消できた」と回答している学生の割合は71.0%で、教員評価では73.4%となっている。取組において多くの学生は悩みながら活動しているものの、比較的うまくストレスを解消できているようである。

Q 14. [ストレスコントロール力] あなたは、ストレスをうまく解消できましたか。

	うまく解消できた	あまり解消できなかった	無回答	合計
学生	44	17	1	62
教員	47	17	0	64
学生	71.0%	27.4%	1.6%	100.0%
教員	73.4%	26.6%	0.0%	100.0%

⑦ チームワーク力

取組前と比較して、チームワーク力が上昇したかどうかについては、学生の67.7%が「上昇した」と回答している。教員評価では51.6%となっており、それなりにチームワーク力は上昇したと考えられる。

Q 15. 取組前と比較して、チームワーク力は、上昇したと思いますか。

	上昇した	あまり上昇しなかった	ほとんど変化がなかった	合計
学生	42	17	3	62
教員	33	27	4	64
学生	67.7%	27.4%	4.8%	100.0%
教員	51.6%	42.2%	6.3%	100.0%

(4) 3つの社会人基礎力の比較

以上3つの社会人基礎力の評価結果を図示すると、次のとおりである。

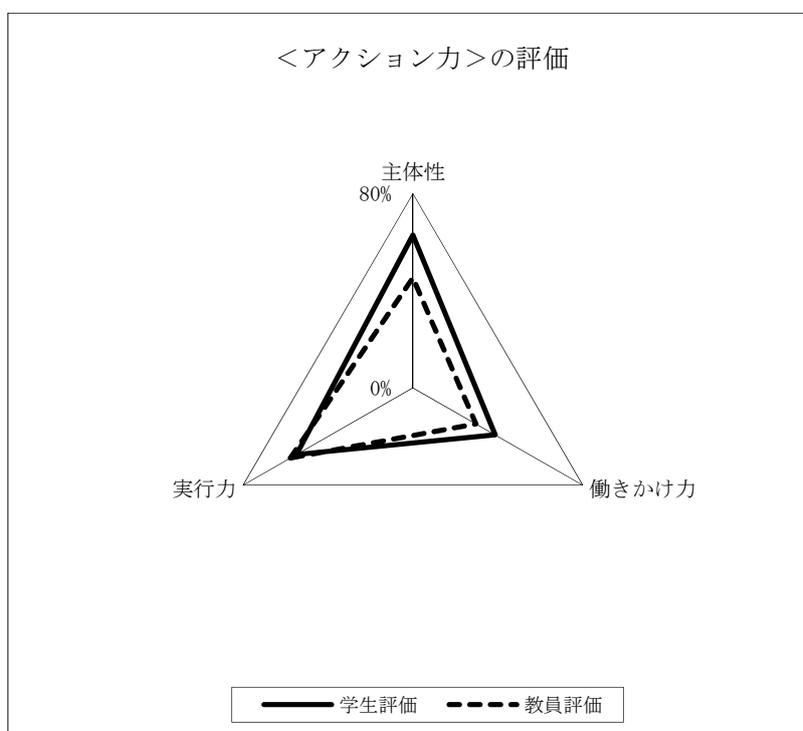
① アクション力

アクション力では、例年通り、働きかけ力の評価が、学生、教員ともに低くなっている。

アクション力の3つの指標を比較すると、今年度の学生の場合、主体的には取り組めたと思っている学生の割合が62.9%と高いが、教員の評価は45.3%と低くなっている。学生はそれなりに積極的に活動していると感じている一方で、教員はもう一歩踏み出してほしいという期待感を持っているようである。

＜アクション力＞の評価

		学生評価	教員評価
主体性	進んで取り組んだ学生の割合	62.9%	45.3%
働きかけ力	積極的に働きかけた学生の割合	38.7%	29.7%
実行力	確実に実行できた学生の割合	54.8%	57.8%



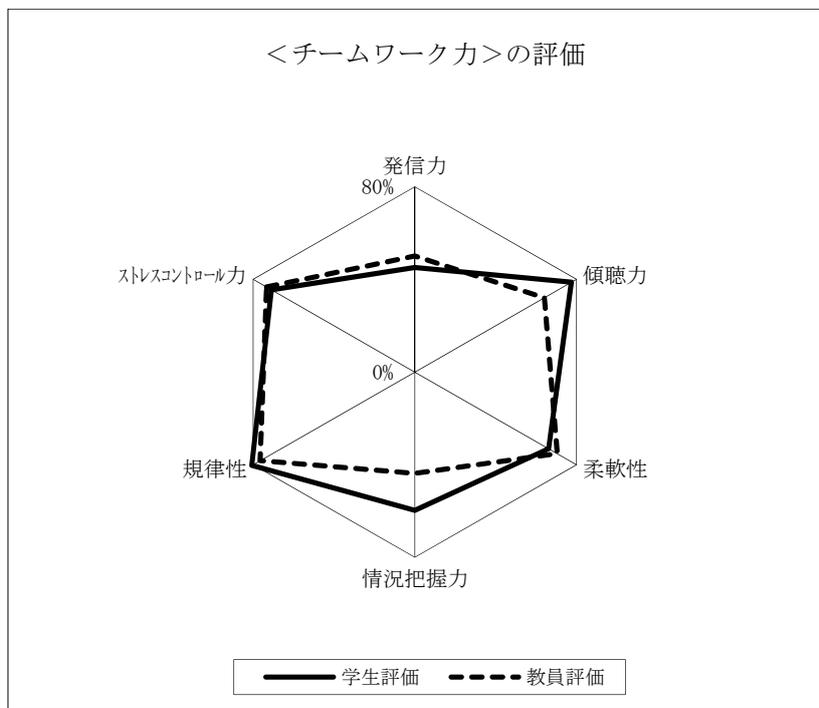
③ チームワーク力

チームワーク力は、「アクション力」や「シンキング力」よりも総合的に高い評価となっている。個別にみると、傾聴力、柔軟性、規律性、ストレスコントロール力で、教員評価が高くなっている。

学生の自己評価も同様であるが、教員の評価が発信力と状況把握力が低い点は、今後指導を強めていく必要があるだろう。

<チームワーク力>の評価

		学生評価	教員評価
発信力	十分伝えられた学生の割合	45.2%	50.0%
傾聴力	十分聞いた学生の割合	77.4%	64.1%
柔軟性	十分理解した学生の割合	66.1%	70.3%
状況把握力	十分理解した学生の割合	59.7%	43.8%
規律性	守った学生の割合	80.6%	76.6%
ストレスコントロール力	うまく解消できた学生の割合	71.0%	73.4%



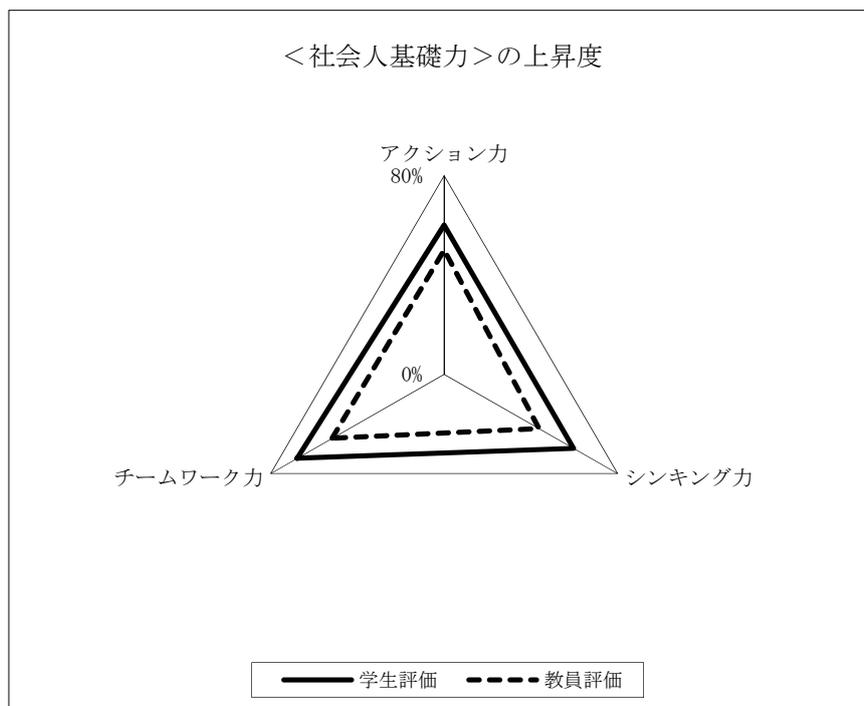
④ 社会人基礎力の上昇度

3つの社会人基礎力の上昇度（取組前と取組後の比較）は、学生の自己評価と教員評価の間に多少のずれがあり、全体的に学生のほうが教員の評価を上回っている。この数値が高いか低いかは評価が分かれるところであろうが、1つの講義で学生の社会人基礎力がこれだけの伸びるということはあまり考えられず、プログラムとしては一応の成功がみられるのではなかろうか。

今後の取組においては、今年度の結果に表れている学生評価と教員評価との差を小さくすると同時に全体的な上昇度を高めていくことに対して、継続的に検討していく必要がある。

＜社会人基礎力＞の上昇度

		学生評価	教員評価
アクション力	上昇した学生の割合	60.0%	50.0%
シンキング力	上昇した学生の割合	59.7%	43.8%
チームワーク力	上昇した学生の割合	67.7%	51.6%



3.2 ビジネス展開能力の評価

ビジネス展開能力（企画、提案）については、『成果発表会』において、参加者（地域連携アドバイザー、一般参加者、本学学生、本学教職員）に対して、「地域活性化プログラム成果発表会意見シート（参考資料5）」にて、取組の評価等をいただいた。

意見シートは、165名に対して132名回収できた。回収率は80%である。当日は以下の8取組の発表がなされた。

ゼミ名	テ ー マ
村山 光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割
米山 宗久 ゼミ	高齢者の買い物支援 —地域のつながり再構築—
広田 秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—
鯉江 康正 ゼミ	新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を知らせよう！
高橋 治道 ゼミ	地域の魅力発信による絆結び —神谷の魅力をつなげ・ひろげる—
吉盛 一郎 ゼミ	長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
小千谷活性化 プロジェクトチーム	小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言



(1) 取組テーマ（タイトル）と内容の合致

取組テーマ（タイトル）と内容の合致については、「合致していた」との回答が全体で90.1%であった。活動を進めるなかで活動の範囲や方向性が変わった取組もあったようであるが、タイトルは非常に重要であり、この点は担当教員が指導していくことが望まれる。

Q1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。

		合致していた	あまり合致していなかった	合致していなかった	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	85	3	0	88	8	96
	一般参加者	161	19	0	180	52	232
	本学学生	458	48	1	507	53	560
	本学教職員	143	18	4	165	3	168
	合計	847	88	5	940	116	1,056
構成比 (%)	アドバイザー	96.6	3.4	0.0	100.0		
	一般参加者	89.4	10.6	0.0	100.0		
	本学学生	90.3	9.5	0.2	100.0		
	本学教職員	86.7	10.9	2.4	100.0		
	合計	90.1	9.4	0.5	100.0		

(2) 取組に対する参加者の興味

各取組への興味については、「興味がある」という回答は、全体で74.2%であった。興味を持てるかどうかは、扱う内容によるが、地域の課題を解決することを目的とした取組である以上、無意味な取組は無いわけで、この設問自体意味がないかもしれない。ただし、本学学生の興味の度合いが低い(62.4%)ことは問題であろう。学生がこれから社会に出て行く上で、多くの事柄に興味を持つことを期待したい。

Q2 この取組に興味をもてましたか。

		興味がある	どちらかといえば、興味がない	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	82	7	89	7	96
	一般参加者	160	18	178	54	232
	本学学生	314	189	503	57	560
	本学教職員	137	27	164	4	168
	合計	693	241	934	122	1,056
構成比 (%)	アドバイザー	92.1	7.9	100.0		
	一般参加者	89.9	10.1	100.0		
	本学学生	62.4	37.6	100.0		
	本学教職員	83.5	16.5	100.0		
	合計	74.2	25.8	100.0		

(3) 発表の仕方

発表については、「非常に優れていた」が24.5%、「優れていた」が60.3%で、この評価はかなり厳しいものではあるが、多くの学生が、壇上で一般市民をも含めた方々の前での発表は初めての経験であり、一応の評価はできるものと思われる。

このプログラムも地域活性化GPの取組から通算すると7年目であり、学生の間には何とかなるだろうという雰囲気を感じられないこともない。自分たちの一年間の活動成果を発表することによって、地域貢献をしていくという意味を指導していく必要がある。

また、学生はミスをしないうために原稿を作成するので、それを読むと棒読みになり、聞いている人に伝わりにくくなると言うことを指導していく必要もある。

Q3 発表の仕方はどう感じましたか。

		非常に優れていた	優れていた	やや問題あり	4. 問題外	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	22	52	12	1	87	9	96
	一般参加者	41	113	24	0	178	54	232
	本学学生	137	304	64	4	509	51	560
	本学教職員	30	97	37	1	165	3	168
	合計	230	566	137	6	939	117	1,056
構成比 (%)	アドバイザー	25.3	59.8	13.8	1.1	100.0		
	一般参加者	23.0	63.5	13.5	0.0	100.0		
	本学学生	26.9	59.7	12.6	0.8	100.0		
	本学教職員	18.2	58.8	22.4	0.6	100.0		
	合計	24.5	60.3	14.6	0.6	100.0		

(4) 取組の評価

取組の評価については、「非常に素晴らしい」が27.1%であった。また、「素晴らしい」まで加えると82.0%でそれなりに取組が評価されていることがわかる。本学学生についてみると両者の合計は83.1%であり、興味を聞いた質問よりも20.6ポイントも増加している。この結果からも、シンポジウム等への参加機会や学生間の交流機会を増やしていくことが、学生の興味を引き起こし、社会人基礎力を向上させたり、ビジネス展開能力を養成したりするために必要であると思われる。

Q4 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。

		非常に素晴らしい	素晴らしい	やや物足りない	大学生のレベルに達していない	小計	無回答	合計
実数	アドバイザー	32	40	16	0	88	8	96
	一般参加者	31	116	28	1	176	56	232
	本学学生	154	268	81	5	508	52	560
	本学教職員	37	90	38	0	165	3	168
	合計	254	514	163	6	937	119	1,056
構成比 (%)	アドバイザー	36.4	45.5	18.2	0.0	100.0		
	一般参加者	17.6	65.9	15.9	0.6	100.0		
	本学学生	30.3	52.8	15.9	1.0	100.0		
	本学教職員	22.4	54.5	23.0	0.0	100.0		
	合計	27.1	54.9	17.4	0.6	100.0		

第4章 取組結果のまとめ

平成25年度長岡大学「学生による地域活性化プログラム」のまとめとして、取組成果と今後の課題、各取組の概要を整理しておく。なお、各取組の詳細な内容は「第Ⅱ部 学生による活動報告」を参照されたい。

4.1 取組成果と今後の課題

本プログラムは学生の社会人基礎力、企画・提案力の開発と地域活性化への貢献を目指すものである。ここで本年度の成果と今後の課題を簡単にまとめておく。

- ①取組に熱心に参加した学生については、社会人基礎力のうち、アクション力とチームワーク力はかなり向上したと思われる。また、シンキング力については、教員評価ではその成長度合いが他の2つの「力」よりも低かったものの、提案（地域活性化GPの主たる目的）から実際の活動にウエイトを変えたことにより、自分たちで考えて行動する力の成長は数値以上にみられた。
- ②専門的技法の活用能力についても、活動の中心となっている学生は真剣で成長がみられたが、基礎調査や情報処理が苦手な学生もおり、彼らをどのようにして取組に積極的に参加させ能力アップを図っていくかの方策の検討が必要であろう。
- ③地域活性化への貢献については、アンケートやヒアリングの実施、地域イベントへの参加、ボランティア活動への参加を通して、かなり満足のいく結果が得られていると感じている。また、今年度の成果としては、取組7年目のゼミも多く、学生が調査の進め方をかなり身につけてきている点あげられる。しかしながら、非常に積極的に地域に入り込み活動していく学生がいる一方で、自主性という点についてはまだまだ足りない面も見られる学生がいることは事実である。大学である以上、4年生は卒業していくことになるので、3年生が次の3年生にどう活動を伝えていくかが重要なポイントになると思われる。なお、今年度から2年生の参加が認められ、少人数ではあるが初年度としてはある程度の成果が得られた。次年度以降も2年生の参加を促し、学生が早期から地域の実課題にじっくりと取り組める環境を整えていきたい。
- ⑤一部のゼミでは次年度の活動について議論を始めており、実際に街へ出て活動しようという機運も見られる。次年度以降も取組が継続されるため、地域社会からの応援をお願いしたい。1年間お世話になった皆様、ありがとうございました。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしく願い申し上げます。

4.2 取組結果の概要

以下、本年度の取組結果の概要をパネルで紹介して、第 I 部のまとめとしたい。

ゼミ名	テーマ
村山光博 ゼミ	企業の情報発信とホームページの役割
米山宗久 ゼミ	高齢者の買い物支援 ―地域のつながり再構築―
広田秀樹 ゼミ	グラスルーツグローバリゼーション ―草の根・地域からの地球一体化推進―
鯉江康正 ゼミ	新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
権 五景 ゼミ	十分杯で長岡を知らせよう！
高橋治道 ゼミ	地域の魅力発信による絆結び ―神谷の魅力をつなげ・ひろげる―
吉盛一郎 ゼミ	長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ

※今年度から認められた 2 年生の学生を含む学生有志、小千谷活性化プロジェクトチームによる「小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言」については、今後も取組を継続し、次年度の活動報告書でまとめて報告させていただく予定です。



平成25年度 学生による地域活性化プログラム 企業の情報発信とホームページの役割

■担当教員

村山光博 教授

■ゼミ学生

4年生：袁苗、小田優、胡礼橋、関匠、深澤修三、山口真代、山本心美、叶静

3年生：猪俣陵、神田美典、黒崎修平、佐々木貴章、布川尊也、楡村

■アドバイザー：NPO 法人長岡産業活性化協会 NAZE 情報化コーディネーター 杉浦聡氏

取組の目的

○企業が自社ホームページで発信している情報がターゲットに向けた適切な内容であるか、また情報を効果的に伝える仕組みになっているかを調査し、改善案を策定する。

○企業ホームページを改善することにより、地域企業の特徴や強みをPRする。

今年度の取り組み

① ホームページ診断および改善案の策定

株式会社システムスクエアのホームページ診断と改善案の策定を実施した。ゼミ学生全員で同社のホームページを開覧し、「コンテンツ診断シート」および「システム診断シート」で評価を行った。また、ゼミ学生の意見収集・整理することで「優れている点」と「改善を期待する点」をまとめた。これらの診断結果と改善案を平成25年10月に同社に提出した。同社のホームページは、同じく10月に全面リニューアルされた。

② ホームページデザイン案の策定

長岡電子株式会社のホームページ開設に向けて、ホームページデザイン案の策定を行った。

デザイン案の策定に先立って、同社の工場見学やヒアリングを通して事業の概要や特徴の理解を深めた。

ゼミ学生のグループが検討したメニュー構成とホームページデザインの1次案を同社に提案し、今後も検討を進めていくことを確認した。

③ ホームページ活用事例調査

株式会社システムスクエアとマコー株式会社の2社に対して、各社のこれまでの自社ホームページ改善の取り組みに関するヒアリング調査を行い、ホームページの優れた活用事例として文書にまとめた。

ヒアリング・工場見学の様子

(株)システムスクエア

長岡電子(株)



マコー(株)

(株)システムスクエア

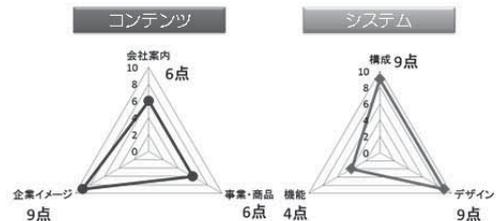


① ホームページ診断および改善案の策定 株式会社システムスクエア

1. ホームページ診断時のトップページ



2. ホームページ診断の結果



3. 改善を期待する点

- よくある質問をまとめたページを追加してはどうか。
- [お問合せ]のページに連絡先の電話番号やファックス番号も記載したほうが良い。
- [お問合せ]のページに、個人情報保護に関する記述を追加したほうが良い。
- トップページに本社の住所、電話番号、FAX番号などの情報を掲載したほうが良い。
- 左サイドのメニュー下の余白部分を活用して情報を掲載できないか。
- [ダウンロード]のメニューはそのままでは意味がわからないので、[製品情報]の中に[カタログダウンロード]という表示を行って、カタログファイルを掲載してはどうか。
- 会社紹介VTRと製品紹介の動画ファイルの形式を変えることはできないか（ユーザーのPC環境によって見られない場合がある）。→YouTubeの利用を検討してはどうか
- クリックしたリンクの色が変わるようにしたほうが良い。（掲載されている製品の数が多いため、どれを見てどれを見ていないのかを知りたい）
- 文字サイズ変更ボタンをつけてほしい。
- サイト内検索窓をつけてほしい。

（順序不同）



平成25年度 学生による地域活性化プログラム 企業の情報発信とホームページの役割

②ホームページデザイン案の策定 長岡電子 株式会社

1. ホームページ作成方針の検討

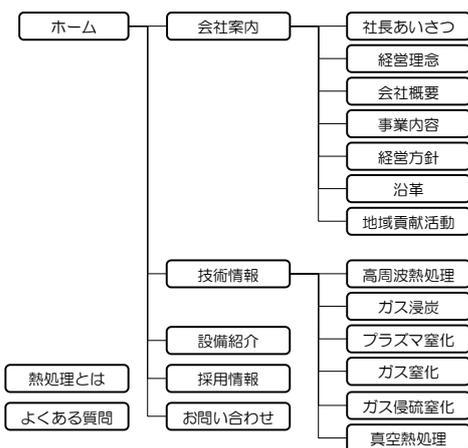
長岡電子(株)のヒアリング結果を踏まえて、ゼミ内で意見を出し合い、同社ホームページの作成方針やゼミ活動の進め方などを検討した。



2. メニュー構成案の検討

ゼミ学生のグループが検討したメニュー構成とホームページデザインの1次案を同社に提案し、今後も検討を進めていくことを確認した。

同社ホームページのメニュー構成案では、「ホーム」の下に「会社案内」、「技術情報」、「設備紹介」、「採用情報」、「お問い合わせ」といった項目を配置し、さらにその下に細かく項目を分けている。また、熱処理に関するわかりやすい説明を掲載する「熱処理とは」という項目や、熱処理に関して同社に多く寄せられる問合せなどを集めた「よくある質問」という項目も配置することを考えた。



ホームページデザイン案の一例



③ホームページ活用事例調査 マコー 株式会社の事例



同社のホームページは、閲覧する顧客側の視点でつくることを念頭に置いていた。企業側の伝えたい情報と、顧客側の知りたい情報が必ずしも同じとは限らないからである。また、掲載する情報の内容や量についても、ただ膨大なデータベースを載せるだけでは一般の人には見てもなかなか分かりづらいという問題点があるため、検索機能に工夫を施していた。情報量と検索機能とのバランスがとれているため非常に見やすく、情報を探しやすいホームページとなっていた。

ホームページ作成に必要なのは、伝えたい情報の明確化、顧客の求める情報の明確化、情報の簡潔化及び整理を行うことであると考えます。検索ワードにも注意を払うことで閲覧者の増加を狙うことができるかもしれない。ホームページの有効活用にはこれらのことに注意を払う必要がある。

株式会社システムスクエアの事例



ホームページ運用では、部分的に外部の業者に委託することも可能である。しかし、外部の業者に委託してホームページを開設しても、それでホームページが完成したわけではない。顧客が自社ホームページに何を求めているのか、ニーズを常に把握して反映していくことがとても重要である。

顧客が書き込みをしやすい問合せページを設置すると、ホームページからの問合せ数の増加に繋がる。同社は問い合わせ件数が思ったように伸びないことを受け、これまでは自由記述方式になっていたお問合せページのレイアウトを、あらかじめ想定される質問項目を並べた中から顧客が問合せたい項目にチェックを付けるレイアウトに変更した。その結果、問い合わせ件数が著しく増加した。このようなPDCAが質の高いホームページ制作への礎になっている。



平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム

高齢者の買い物支援
—地域のつながりの再構築—

◆担当教員
米山宗久 准教授

■ゼミ学生 4年生 : 斎藤郁美、菅原伸悟、高野憲和、高橋将貴、豊岡 丈、前山倫世、山倉恵莉
3年生 : 小野澤泰介、川津敬永、小林美穂、坂井愛優、酒井直也、福原寛生

■アドバイザー: 本間和也氏(社会福祉法人長岡市社会福祉協議会本部事務局地域福祉課 課長)
綿貫哲夫氏(長岡市福祉保健部長寿はつらつ課 主査)

取組の目的

- 少子高齢化や過疎化等に伴い、商店や公共交通機関等の日常生活に不可欠な「生活インフラ」が弱体化している。
- 高齢者は年齢を重ねるごとに、身体的、精神的、住環境的、経済的要因によって買い物機会を失われつつある。
- 小売店の減少と反比例するように大規模小売店が規制緩和を受け、郊外に出店している
- 本研究では、今後の買い物支援のあり方を見つめ直し、新たな支援策を提言することを目的とする。

研究の意義

- | | | | |
|-------------|-------------|---|---------|
| 1 地域福祉の推進 | : 地域住民の支えあい | ⇨ | 地域の活性化 |
| 2 買い物支援 | : 食の確保・健康維持 | ⇨ | 経済波及 |
| 3 コミュニケーション | : 地域住民の交流 | ⇨ | 生きがいの創出 |
| 4 地域振興 | : 経済効果・起業喚起 | ⇨ | 雇用拡大 |

取組の流れ

- | | |
|-------------------------|---|
| ① 長岡市の高齢福祉施策の学習 | ⇒ 長寿はつらつ課職員から高齢福祉施策の講義を受ける |
| ② 長岡市社協実施のボランティア銀行の学習 | ⇒ 社会福祉協議会職員からボランティア銀行の利用動向の講義を受ける |
| ③ 車いす試乗及び介助体験 | ⇒ 車いすを使い、大学校舎内や坂道で介助体験を行い、高齢者や障がい者行動を理解する |
| ④ 経済産業省の買い物支援の検証 | ⇒ 「店を作る」、「商品を届ける」、「出かけやすくする」の3つの支援を検証する |
| ⑤ ボランティア銀行協力会員へのヒアリング | ⇒ 買い物支援を行っている4名の協力会員から支援内容や高齢者の要望を聞く |
| ⑥ ボランティア銀行依頼会員へのヒアリング | ⇒ 買い物支援を依頼している3名の高齢者から依頼理由や買い物目などを聞く |
| ⑦ 栖吉地区高齢者お茶会への参加 | ⇒ 元気高齢者との交流を行い、買い物動向や生きがい活動などを聞く |
| ⑧ 現行の買い物支援と高齢者の買い物要望の精査 | ⇒ 現行の買い物支援策やヒアリングから支援策の検証をする |
| ⑨ 新たな買い物支援の提案 | ⇒ 個別に具体的な支援策を提案し、その中から新たな支援策を協議して決める |

新たな買い物支援策

〈空き家を使った移動販売型買い物支援(市場併用)〉

- ◆ **近所での買い物**
歩いていける、友人知人と一緒になる、買ったものも持ち帰れる、買い物代も頼みやすい、買い物時に会話をする
- ◆ **商品を目で見れる**
好きなものが買える、視覚で商品を選べる、予算を考える、頭を使う、認知症予防につながる。
- ◆ **コミュニケーションができる**
地域住民間の会話の促進、世代間交流の機会拡大、地域のイベントに参加、若者との会話の場や相談の機会
- ◆ **交流の場の拡大**
地域コミュニティ活動の活性化、世代間交流の機会拡大、近隣住民との関係づくり
- ◆ **空き家の解消**
空き家の再生利用、地域の安全確保、安心できる場所の確保、地域で気軽に集まれる場所の確保



高齢者ヒアリング



ボランティア銀行の講義



高齢者ヒアリング



車いす体験

実施に向けた方策

- | | |
|------------|--------------------|
| ○モデル地区での検証 | → デモ地域での実施検証 |
| ○意向調査・利用調査 | → 高齢者の意向や利用希望の調査実施 |
| ○ボランティアの確保 | → 買い物支援へのボランティアの協力 |
| ○空き家の確保 | → 借利用できる空き家の検証 |
| ○小売店の参入 | → スーパーなどの事業協力の意向調査 |

空き家を使った移動販売型買い物支援イメージ図





平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム
グラスルーツグローバルゼーション
一草の根・地域からの地球一体化推進一

◆担当教員
広田秀樹 教授

■ゼミ学生名 4 年生 : 王偉志・松川貴之・李又輝・鹿又幸太
3 年生 : 間野宏樹

■アドバイザー : 大出恭子氏(コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表)
デビット=ブズロー氏(IT コンサルタント)

グローバルゼーションとは？



あらゆる点で、世界的交流が盛んになり、世界全体が一体化していくこと。

「グラスルーツグローバルゼーション」の定義

草の根・地域からグローバルゼーション(地球一体化)を平和的に進めその過程を地域活性化に役立てることを志向する活動を、グラスルーツグローバルゼーション(草の根・地域からの地球一体化推進)と定義

私達の目標

世界のどこの出身の人が来ても歓迎されるような地域の構築！

グラスルーツグローバルゼーションの活動方法

- 1) Study : グローバリゼーションに関する学習
- 2) Invite : 外国人の方等をゼミに招待し交流
- 3) Visit : 外国人の方が集まる場等への訪問
- 4) Donate : 学園祭に出店し利益を世界に寄附

1) Study : グローバリゼーションに関する学習

本年度は、「グローバルゼーションの世界的レベルでの恩恵」
「グローバルゼーションを地域の活力にするには？」
「グローバルゼーションに反対する勢力について」
「グラスルーツグローバルゼーションの展開」
という4つのメインテーマを決め学習を行った。

2) Invite : 外国人の方等をゼミに招待し交流

世界から地域にやってきた外国人の方や国際交流で活動する方を招待し、対話・交流しさまざまなことを学んだ。

3) Visit : 外国人の方が集まる場等への訪問

世界から来られている外国人技能実習生の会合に出席し交流した。
長岡市内にある母国料理を提供する外国の方のお店を訪問した。

4) Donate : 学園祭に出店し利益を世界に寄附

世界の子供たちを応援する目的でお店を開いた。
少しでも世界の商品を知ってもらうことを考え、毎年世界からの輸入品を扱っている。
得た収益の全てを『ユニセフ』に寄附している。

コミュニティ・リーダーズ・ネットワーク代表
大出恭子氏を迎えての意見交換会



カメルーンからの留学生
レイナー=タバンド氏との交流



外国人技能実習生と交流



ユニセフへ寄附



**Yokoso ! Welcome to Nagaoka !
Nice to Meet You !**



平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム

新潟県内まちの駅の情報発信と
地域への影響調査

◆担当教員
鯉江 康正 教授

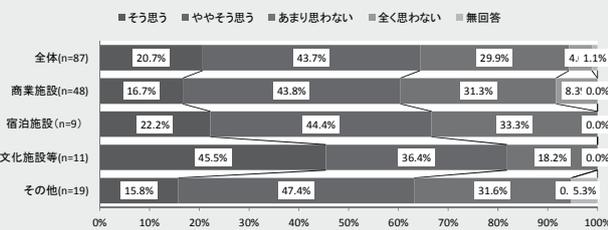
■ゼミ学生
4年：永井 友之、西山 和之
3年：伊佐 夏美、高野 綾夏、滝沢 晶、
目黒 達典、劉 洋

■アドバイザー
長岡市市民協働推進室市民協働班主任：木村 圭介氏
まちの駅ネーブルみつけ隊長：中川 一男氏

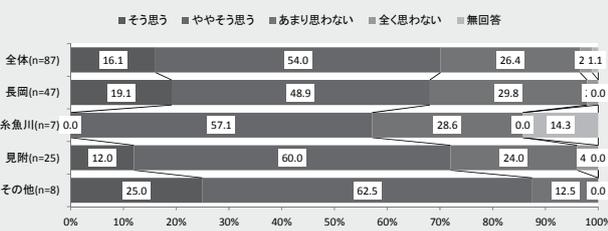
取組の目的

新潟県内のまちの駅の情報発信の活動を通して地域の魅力を地域の人々に伝えると共に、まちの駅が地域にどのような影響を与えているかを、アンケート調査をから明らかにしていく。

口コミによる情報発信の機会が増加したと思いますか。(1つだけ)



地域の情報が伝わりやすくなったと思いますか。(1つだけ)



取組の成果と分析結果概要

- 新潟県内まちの駅の情報発信
 - ・学園祭でパネル展を開催し、来場者は413名だった。
 - ・「長岡デザインフェア 2013」に越後長岡まちの駅のパネルを出展した。
- 新潟県内まちの駅(120駅)への「まちの駅の活動による影響調査」(回収数87駅、回収率72.5%)
 - ①「あなたが観光や遊びで出かけたときに地域全体でどのようなまちづくりがおこなわれているか興味がありますか」という設問に対し、89.7%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、10.3%が「あまり思わない」「全く思わない」と回答している。
 - ②「口コミによる情報発信の機会が増えたと思いますか」という設問に対し、全体では、64.4%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、34.5%が「あまり思わない」「まったく思わない」と回答している。
 - ③「地域の情報が伝わりやすくなったと思いますか」という設問に対して、70.1%が「そう思う」「ややそう思う」と回答し、28.7%が「あまり思わない」「全く思わない」とい回答している。
 - ④ アンケート調査を通して、まちの駅の方は、地域への関心が高く、地域の情報発信に意欲的であることが分かった。
- 今後の方向性

地域を活性化するために、地域や業種を超えて協力できる「まちの駅」の活動が期待されると共に、わがゼミも協働していきたいと考えております。

研究の枠組みと方法

「まちの駅」の歴史と概要
(文献調査)

過年度調査結果の概要
(過去6年間の取組の振り返り)

活動内容の検討・決定、活動計画の作成

【今年度の活動】

1. 長岡・見附・糸魚川地域の「まちの駅」の情報発信 <活動内容>
 - ①糸魚川のまちの駅(全10駅)
長岡・見附の新規まちの駅(7駅)の紹介パネル作成
(ヒアリング調査、パネル作成)
 - ②過去に作成したまちの駅紹介パネル(90駅)の修正・更新
(ヒアリング調査、紹介文の修正、情報更新)
 - ③パネル展及び商品展示(学園祭でのパネル展実施)
 - ④まちの駅を通じた各種イベントへの参加
(スタッフとしてボランティア参加)
2. アンケート調査による地域への影響調査 <調査内容>
 - ①「まちの駅」の属性
 - ②「まちの駅」の交流・連携
 - ③「まちの駅」の活動による地域への影響

成果発表と報告書のとりまとめ

ながおかまちの駅
アオーレ長岡 情報ラウンジ

「ながおかまちの駅」は、長岡市駅周辺地区の活性化を目的として、平成24年アオーレ長岡の開設と同時に開設しました。アオーレ長岡の情報ラウンジ「ながおかまちの駅」は、市民や観光客が気軽に利用できる情報発信の拠点として、まちの駅と連携して活動しています。また、まちの駅と連携して、まちの駅の情報発信の拠点として、まちの駅と連携して活動しています。





平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム
十分杯の広報活動



◆ゼミ教員
権五景准教授

■ゼミ学生名 4年生 : 宇尾野大樹 佐藤旭 3年生 : 三國弦
■アドバイザー : 内山弘氏 (長岡歯車資料館 館長)
太刀川喜三氏 (ながおかまちの駅 駅長)

取組みの目標

長岡ゆかりの十分杯の認知度を高めることで、十分杯やその教え(足るを知る)を地域社会に広げることを当面の目標として取り組んだ。長期的目標としては、十分杯をモチーフとした長岡土産を開発することで少しでも長岡の活性化につなげることを目標としている。

活動の意義

地域の由緒ある文化遺産であるが、知名度が低いため評価してもらえなかったものを地道な広報活動で認知度を高めたことが地域文化の再発見という意味において大きな意義がある。

主な広報活動

1. 長岡大学学食入り口に十分杯を展示
2. わかりやすいパネル製作
3. 長岡と十分杯にかかわる文献研究
4. 大学祭で展示
5. 十分杯の認知度調査
6. 十分杯ホームページ作成
7. 越後長岡酒の陣で展示
8. 新潟日報に掲載

長岡と十分杯の関わり

長岡藩を根底から支えていた精神は二つあったと言われている。一つが常在戦場(常に戦場にいる心構えを持って生き、ことに処す)の精神であり、もう一つが十分杯(戒め、節儉)の精神であるが、現在では十分杯の精神はあまり知られていない。

長岡藩と十分杯の出会いは三代藩主牧野忠辰公(まきのただとき 1665-1722)の時代にまで遡る。

忠辰公以前からも武士は簡素な生活を旨としていた。ところが、元禄時代(1688-1704年)になると貨幣経済が発展し、戦国期の苦しい時代から民衆も生活水準が向上し、生活必需品以外を購入する余裕もでき、町人の生活が奢侈化するにつれて武士たちも同調し華やかな生活をするようになった。長岡も例外ではなかったかもしれない。そこで忠辰公はこれを憂い、文武の奨励や制度の改定をして、藩士の引き締めをはかった。

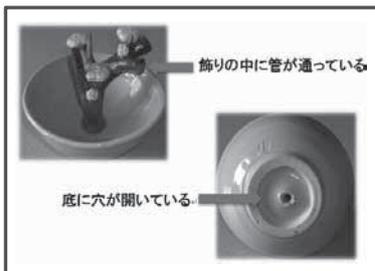
その象徴が十分杯だった。「満つれば欠く」という処世訓を示したものである。

忠辰公が塚越という領民(おそらく庄屋)の持参した十分杯に感銘を受けて詩を詠み、処世訓としたことから長岡に十分杯が知られることになった。

今後の目標

- ◇十分杯をモチーフとした長岡土産製作
- ◇十分杯めぐり観光コースの開発
- ◇十分杯フォーラムの開催

<十分杯の仕組み>



<のぼり>



権ゼミオリジナルの紙コップ十分杯

<アオーレ長岡での広報活動の様子>





平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム

地域の魅力発信による絆結び
—神谷の魅力をつなげ・広げる—

◆担当教員
高橋治道 教授

■学生名 4 年生 : 阿部亮太 上野晋矢 大沢健介 佐山奈津美 高橋達郎 早川祐也
3 年生 : 伊藤健宏 太田愛実 國松優樹 古田島夏希 羽賀雄介 星田周哉
水品拓郎 大山真実

■アドバイザー : 白井滙氏 (長岡市 神谷区長)
桑原真二氏 (NPO 法人ながおか情報交流ねっと 理事長)

取組み目的

長岡市神谷地区 (旧越路町神谷地区) をモデルとして、地域に残る文化や歴史などの資産を守りながら地域の活性化を図る方策を試みる。今年度は、これまでゼミで取り組んできた活動を地域住民が主体となった取り組みへと継続・発展させ、魅力をつなげ・広げてゆくための足がかりを作ることを目的とした。

取組みの意義

神谷地域に残る有形無形の歴史的建造物や伝統文化等を生かした地域活性化策を考える中で、自分が生まれ育った地域を新たな視点で見つめなおし、地域コミュニティに参加して行く姿勢を学ぶことができる。また、取り組みの企画・実行、陳地域住民との交流を通して、陳キング力、アクション力、コミュニケーション力などを身に付けることができる。

取組みの成果

- 新潟県初のチューリップ開花地をアピールするチューリップ植栽を行い、国道を通る人にアピールした。
- e コミュニティ・プラットフォームを使った「越後長岡神谷のサイト」を作り、ネット上に神谷を紹介するサイトを作った。
- 神谷の自然を子供たちに伝えるために、e ボートを使った川下りを企画し、実施に向けた準備を進めている。

<活動の成果>

チューリップの植栽



越後長岡神谷のサイト



E ボート現地調査



活動の枠組みと方法

メンバーが話し合った結果、4 年生は 24 年度の取り組みを継続発展させるために、24 年度の班構成のまま活動することになった。3 年生は、全員で新たなテーマで取り組みを行うことにした。設定したテーマは、次の 3 つとした。

- ①「神谷の魅力を創り引き出す」
- ②「神谷の魅力を他の場所へアピール」
- ③「神谷の自然を知り、伝える」

このテーマに沿って 3 つの班を設定し、各班が独自に活動を行うと共に、地域の行事には積極的に参加し、神谷の人たちとの交流を深める活動を行う。

活動の概要

第 1 班

- ・新潟県初のチューリップ開花地であることをアピールするためのチューリップ植栽を行い、今年はすべての球根の開花を目指した。
- ・チューリップ植栽を神谷地域に定着させ、神谷の住民が主体となって、チューリップ植栽を神谷地域に定着させることを目的に、「花壇づくり」、「球根植栽」を知らせるチラシを回覧板で回覧し、参加を呼びかけた。

第 2 班

- ・神谷の歴史と伝統を住民のみならず広く知らせるために e コミュニティ・プラットフォームを使った「越後長岡神谷のサイト」作り取り組み、公開した。
- ・作成・公開した「越後長岡神谷のサイト」を恒常的に運営してゆくための運営システムの提案を目指した。

第 3 班

- ・神谷の自然を知り、自然と親しむ楽しさを子供たちに伝えることを目指し、昔は子供たちの夏の水遊び場であるとともに荷物の運搬にも使われていた「須川」の川下りに向けた計画に取り組んだ。
- ・「須川」の川下りに安全性の高い e ボートを使うこととし、計画実現に向けて活動を継続している。

その他

- ・観桜会、どろんこ田植え、ボート作りと進水式、秋祭りの演芸カラオケ大会、神谷区民運動会、収穫祭などの行事へ参加し、神谷の人たちとの交流を深めた。



平成 25 年度 学生による地域活性化プログラム

長岡市東山地域の
自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ

◆ゼミ教員名
吉盛一郎 教授

■ゼミ学生名 3 年生 : 渡邊孝志・池田隆祥・小田勇太・謝吉詰・長橋賢和
Baavlai Badralmaa・浦井要
2 年生 : 須田一聖

■アドバイザー : 林智和氏 (長岡市 市長政策室政策企画課 主査)
和田行夫氏 ((財)長岡市企業公社 東山ファミリーランド・長岡市営スキー場 施設長)
桑原一頼氏 (長岡東山フェニックスグループ 長岡市営スキー場・東山ファミリーランド・
東山テニス場・八方台いこいの森 施設長)

取組みの目的

東山地域は、長岡市の信濃川を挟んで東部に属する地域であり、山古志地域、栃尾地域も含んでいるが、本年度の活動地域は、東山ファミリーランド地区と悠久山地区に限定している。長岡市政策企画課が主催する「東山つうしん会議」に参加して、参加メンバーとの交流から地域の発展に貢献することを目的とする。

活動の意義

東山ファミリーランド地区にある、スキー場、ファミリーランド、農作業体験、植樹会等の各団体の主催する行事に参加する学生の活動によって地域の活性化に繋げる。

アンケートに寄せられた意見

- ① 全般的に自然環境がよいが、PR 不足、もっと人が来ないといけない。
- ② トレッキングに良いコースが何コースもあるので、ハイキングも楽しい。
- ③ ファミリーランドが好きな施設である。子供がうさぎに触れられるので。
- ④ 牛を放牧してところや、夜空の星がきれいなところが好きである。
- ⑤ 東山の名称は聞かぬが、イベント、いろいろな施設のことなど、聞かない。
- ⑥ このままでよい。

アンケート結果からの提案

多くの長岡市民が、東山地域に来て、ファミリーランド、ふれあい農業公園やスキー場を利用している。景色が良く、家族が楽しめて、運動にもよく、そして癒せる場所のようである。

ただ、夏場の暑い日には、屋根付きの休憩場、自販機や売店が有ってほしい。農業公園のトイレ施設を改善してほしい。また、東山地区の情報発信が足りないのではないかと意見もある。

また、東山ファミリーランド地域のエコウォークの散策コース名として、「コスモスの道」や、「悠久の道」、「天空の道」、悠久山の散策コース名として「長岡偉人の道」を挙げてみた。散策コースに名称があれば楽しく散策できると考えるからである。

活動の枠組みと方法

- ① 長岡市の東山地域の活性化に向けた取組みに参加すること
- ② 東山地域の自然・歴史・文化を学習すること
- ③ 悠久山公園と東山ファミリーランド地区のエコ・健康マップを作成すること
- ④ 東山地域の行事に参加すること
- ⑤ 東山地域の活性化に向けてのアンケート調査と分析からの提案
- ⑥ 第 5 回全国エコツーリズム学生シンポジウム (東大会場) に参加して、エコツーリズム大賞 (環境省) に応募すること

(活動) 植樹会とエコウォーク



平成25～29年度文部科学省「地(知)の拠点整備事業」(大学COC事業)採択
長岡地域 創造人材 育成プログラム

学生による地域活性化プログラム

平成25年 成果発表会

プログラム

- 村山 光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割
 - 米山 宗久ゼミ：高齢者の買い物支援 地域のつながり再構築
 - 広田 秀樹ゼミ：グラスルーツグローバリゼーション 草の根・地域からの地球一体化推進
 - 鯉江 康正ゼミ：新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
 - 権 五景ゼミ：十分杯で長岡を知らせよう!
 - 高橋 治道ゼミ：地域の魅力発信による絆結び 神谷の魅力をつなげ・ひろげる
 - 吉盛 一郎ゼミ：長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
 - 小千谷活性化プロジェクトチーム：小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言(鯉江 康正)
- 【総評】 長岡市市長政策室政策企画課長 渡辺 則道 氏
株式会社品川鑄造会長 品川 十英 氏



日時 平成25年 12月14日
13:00～17:00(受付開始 12:30)

会場 ホテルニューオータニ長岡
「NCホール」

ホテル及び周辺駐車場は有料駐車場のみです。公共交通機関をご利用ください。

定員 250名 **入場無料**

申込締切 / 12月6日

主催 / 長岡大学
後援 / 長岡市・長岡市教育委員会・長岡商工会議所
公益財団法人 いいがた産業創造機構
NPO法人 長岡産業活性化協会 NAZE

お問い合わせ・お申込み

FAX: 0258-39-9566

TEL: 0258-39-1600

〒940-0828 長岡市御山町 80-8

http://www.nagaokauniv.ac.jp

e-mail: porev@nagaokauniv.ac.jp

長岡大学教務学生課

地域活性化プログラム担当: 恩田

氏名		会社等	
住所・連絡先	〒		
電話番号		F A X	
E-mail			

ご登録いただいた個人情報は、本学規定に従って厳正に管理します。

学生による地域活性化プログラム
平成 25 年度 成果発表会

平成 25 年 12 月 14 日（土）、ホテルニューオータニ長岡NCホールにおいて、長岡大学生による地域活性化プログラム平成 25 年度成果発表会を実施いたしました。参加者は 175 名（地域連携アドバイザー14 名、一般 49 名、本学教職員 39 名、学生 73 名）でした。

今年度は中間レビューというかたちをとり、アドバイザーから指摘された改善点や意見を取り入れ、長岡・小千谷地域の活性化をテーマに 7 つのゼミナールと 1 チームの計 8 組が成果発表を行いました。地域連携アドバイザーから、今年度の反省点、実施できなかったこと、次年度に向けての方向性などたくさんの質問や貴重なアドバイスをいただきました。このような活動を通じて学生の社会人基礎力は大幅に向上したと思われま

す。
また、総合アドバイザーからは、年々調査研究活動の水準は高まっており、今後とも継続的に活動されることを期待しておりますとのお言葉をいただきました。次年度も引き続き学生による地域活性化プログラムを計画しており、学生が地域人として活躍できるものと期待しております。



＜発表順＞

- 村山 光博ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割
- 米山 宗久ゼミ : 高齢者の買い物支援—地域のつながり再構築—
- 広田 秀樹ゼミ : グラスルーツグローバリゼーション—草の根・地域からの地球一体化推進—
- 鯉江 康正ゼミ : 新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査
- 権 五景ゼミ : 十分杯で長岡を知らせよう！
- 高橋 治道ゼミ : 地域の魅力発信による絆結び—神谷の魅力をつなげ・ひろげる—
- 吉盛 一郎ゼミ : 長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
- 小千谷活性化プロジェクトチーム : 小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言



学生による地域活性化プログラム平成25年度 成果発表会



- ① 村山 光博ゼミ : 企業の情報発信とホームページの役割
- ② 米山 宗久ゼミ : 高齢者の買い物支援—地域のつながり再構築—
- ③ 広田 秀樹ゼミ : グラスルーツグローバリゼーション
—草の根・地域からの地球一体化推進—



- ④ 鯉江 康正ゼミ : 新潟県内のまちなかの駅の情報発信と地域への影響調査
- ⑤ 権 五景ゼミ : 十分杯で長岡を知らせよう！
- ⑥ 高橋 治道ゼミ : 地域の魅力発信による絆結び—神谷の魅力をつなげ・ひろげる—



- ⑦ 吉盛 一郎ゼミ : 長岡市東山地域の自然、歴史、文化をエコウォークで楽しむ
- ⑧ 小千谷活性化プロジェクトチーム : 小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言



最後に総合アドバイザーから総評をいただきました。
アドバイザーの皆様、
1年間ありがとうございました。



市長政策室政策企画課
課長 渡辺 則道 氏

株式会社品川鑄造
会長 品川 十英 氏

学籍 番号		学生 氏名	
----------	--	----------	--

社会人基礎力診断シート（学生用）

本取組（地域活性化の取組）について、各質問の該当する番号に○をつけてください。

ア ク シ ョ ン	<p>[主体性] あなたは、進んで取り組みましたか。</p> <p>1. 進んで取り組んだ 2. あまり進んで取り組めなかった 3. 取り組めなかった</p>
	<p>[働きかけ力] あなたは、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。</p> <p>1. 積極的に働きかけた 2. あまり働きかけられなかった 3. ほとんど働きかけなかった</p>
	<p>[実行力] あなたは、取組を確実に実行できましたか</p> <p>1. 確実に実行できた 2. あまり実行できなかった 3. ほとんど実行できなかった</p>
	<p>取組前と比較して、アクション力（主体性、働きかけ力、実行力）は、上昇したと思いませんか。</p> <p>1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった</p>
シ ン キ ン グ	<p>[課題発見力] あなたは、課題を明らかにできましたか。</p> <p>1. 明らかにできた 2. あまり明らかにできなかった 3. ほとんど明らかにできなかった</p>
	<p>[計画力] あなたは、課題解決の準備ができましたか</p> <p>1. 準備できた 2. あまり準備できなかった 3. ほとんど準備できなかった</p>
	<p>[創造力] あなたは、新しいアイデアを出せましたか。</p> <p>1. 十分出せた 2. あまり出せなかった 3. ほとんど出せなかった</p>
	<p>取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、上昇したと思いませんか。</p> <p>1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった</p>
チ ム ワ ー ク	<p>[発信力] あなたは、自分の意見を相手に伝えられましたか。</p> <p>1. 十分伝えられた 2. あまり伝えられなかった 3. ほとんど伝えられなかった</p>
	<p>[傾聴力] あなたは、相手の意見を聞けましたか。</p> <p>1. 十分聞けた 2. あまり聞けなかった 3. ほとんど聞けなかった</p>
	<p>[柔軟性] あなたは、意見の違いなどを理解しましたか。</p> <p>1. 十分理解した 2. あまり理解しなかった 3. ほとんど理解しなかった</p>
	<p>[状況判断力] あなたは、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。</p> <p>1. 十分理解した 2. 一定に理解した 3. ほとんど理解しなかった</p>
	<p>[規律性] あなたは、ルールや約束を守りましたか。</p> <p>1. 守った 2. あまり守れなかった</p>
	<p>[ストレスコントロール力] あなたは、ストレスをうまく解消できましたか。</p> <p>1. うまく解消できた 2. あまり解消できなかった</p>
	<p>取組前と比較して、チームワーク力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）は、上昇したと思いませんか。</p> <p>1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった</p>

（資料）長岡大学「長岡地域若者キャリア育成事業報告書」（平成19年3月）をもとに作成

学籍 番号		学生 氏名	
----------	--	----------	--

社会人基礎力診断シート（教員用）

本取組（地域活性化の取組）について、各質問の該当する番号に○をつけてください。

ア ク シ ョ ン	[主体性] この学生は、進んで取り組みましたか。 1. 進んで取り組んだ 2. あまり進んで取り組めなかった 3. 取り組めなかった
	[働きかけ力] この学生は、取組の実施にあたって他の人に働きかけましたか。 1. 積極的に働きかけた 2. あまり働きかけられなかった 3. ほとんど働きかけなかった
	[実行力] この学生は、取組を確実に実行できましたか 1. 確実に実行できた 2. あまり実行できなかった 3. ほとんど実行できなかった
	取組前と比較して、アクション力（主体性、働きかけ力、実行力）は、上昇したと思いませんか。 1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった
シ ン キ ン グ	[課題発見力] この学生は、課題を明らかにできましたか。 1. 明らかにできた 2. あまり明らかにできなかった 3. ほとんど明らかにできなかった
	[計画力] この学生は、課題解決の準備ができましたか 1. 準備できた 2. あまり準備できなかった 3. ほとんど準備できなかった
	[創造力] この学生は、新しいアイデアを出せましたか。 1. 十分出せた 2. あまり出せなかった 3. ほとんど出せなかった
	取組前と比較して、シンキング力（課題発見力、計画力、創造力）は、上昇したと思いませんか。 1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった
チ ー ム ワ ー ク	[発信力] この学生は、自分の意見を相手に伝えられましたか。 1. 十分伝えられた 2. あまり伝えられなかった 3. ほとんど伝えられなかった
	[傾聴力] この学生は、相手の意見を聞けましたか。 1. 十分聞けた 2. あまり聞けなかった 3. ほとんど聞けなかった
	[柔軟性] この学生は、意見の違いなどを理解しましたか。 1. 十分理解した 2. あまり理解しなかった 3. ほとんど理解しなかった
	[状況判断力] この学生は、周囲の人や物事との関係を良く理解しましたか。 1. 十分理解した 2. 一定に理解した 3. ほとんど理解しなかった
	[規律性] この学生は、ルールや約束を守りましたか。 1. 守った 2. あまり守れなかった
	[ストレスコントロール力] この学生は、ストレスをうまく解消できましたか。 1. うまく解消できた 2. あまり解消できなかった
	取組前と比較して、チームワーク力（発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力）は、上昇したと思いませんか。 1. 上昇した 2. あまり上昇しなかった 3. ほとんど変化がなかった

（資料）長岡大学「長岡地域若者キャリア育成事業報告書」（平成19年3月）をもとに作成

平成 25 年度「地域活性化プログラム成果発表会」意見シート

2013. 12. 14 (土)

本シートは、学生の「ビジネス展開能力」を判断するもので、各取組の優劣を判断するものではありません。したがって、忌憚のないご意見をお願いいたします。

各質問の該当する番号に○をつけてください。

<あなたの所属を教えてください>

- | | | | |
|---------------|----------|---------|----------|
| 1. 地域連携アドバイザー | 2. 一般参加者 | 3. 本学学生 | 4. 本学教職員 |
| 5. その他 () | | | |

村山 光博ゼミ：企業の情報発信とホームページの役割

- | | |
|-----|--|
| Q 1 | 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 |
| | 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった |
| Q 2 | この取組に興味をもてましたか。 |
| | 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない |
| Q 3 | 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 |
| | 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい
3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 | 発表の仕方はどう感じましたか。 |
| | 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外 |
| Q 5 | 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。 |

<p>米山 宗久ゼミ：高齢者の買い物支援 —地域のつながり再構築—</p>	
Q 1	<p>取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった</p>
Q 2	<p>この取組に興味がもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない</p>
Q 3	<p>学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない</p>
Q 4	<p>発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外</p>
Q 5	<p>本取組に対するご意見をご自由にお書きください。</p>

<p>広田 秀樹ゼミ：グラスルーツグローバリゼーション —草の根・地域からの地球一体化推進—</p>	
Q 1	<p>取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。 1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった</p>
Q 2	<p>この取組に興味がもてましたか。 1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない</p>
Q 3	<p>学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。 1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない</p>
Q 4	<p>発表の仕方はどう感じましたか。 1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外</p>
Q 5	<p>本取組に対するご意見をご自由にお書きください。</p>

鯉江 康正ゼミ：新潟県内のまちの駅の情報発信と地域への影響調査

Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。

1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった

Q 2 この取組に興味がもてましたか。

1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない

Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。

1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい
3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない

Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。

1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外

Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。

権 五景ゼミ：十分杯で長岡を知らせよう！

Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。

1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった

Q 2 この取組に興味がもてましたか。

1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない

Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。

1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい
3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない

Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。

1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外

Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。

高橋 治道ゼミ：地域の魅力発信による絆結び

—神谷の魅力をつなげ・ひろげる—

- | |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。
1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった |
| Q 2 この取組に興味をもてましたか。
1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。
1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい
3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。
1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外 |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。 |

吉盛 一郎ゼミ：長岡市東山地域の自然、歴史、文化を

エコウォークで楽しむ

- | |
|---|
| Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。
1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった |
| Q 2 この取組に興味をもてましたか。
1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない |
| Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。
1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい 3. やや物足りない
4. 大学生のレベルに達していない |
| Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。
1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外 |
| Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。 |

小千谷活性化プロジェクトチーム

:小千谷市中心市街地活性化のための若者による提言

Q 1 取組テーマ（タイトル）と内容は合致しておりましたか。

1. 合致していた 2. あまり合致していなかった 3. 合致していなかった

Q 2 この取組に興味をもてましたか。

1. 興味がある 2. どちらかといえば、興味がない

Q 3 学生の取組としてどのように評価できますか。感想をお聞かせください。

1. 非常に素晴らしい 2. 素晴らしい
3. やや物足りない 4. 大学生のレベルに達していない

Q 4 発表の仕方はどう感じましたか。

1. 非常に優れていた 2. 優れていた 3. やや問題あり 4. 問題外

Q 5 本取組に対するご意見をご自由にお書きください。